

制定日 2016年4月 1日

Safety Data Sheet
安全性データシート

株式会社コベルコ科研
兵庫県高砂市荒井町新浜 2 丁目 3-1
担当部門 ターゲット事業本部技術部
電話番号 079-445-9024
FAX 番号 079-445-9025
緊急連絡先 同上

1. 品名

クロム

2. 危険有害性の要約

GHS分類	項 目	Cr
物理化学的危険性	火薬類	分類対象外
	可燃性・引火性ガス	分類対象外
	可燃性・引火性エアゾール	分類対象外
	支燃性・酸化性ガス	分類対象外
	高圧ガス	分類対象外
	引火性液体	分類対象外
	可燃性固体	区分外
	自己反応性化学品	分類対象外
	自然発火性液体	分類対象外
	自然発火性固体	区分外
	自己発熱性化学品	区分外
	水反応可燃性化学品	分類できない
	酸化性液体	分類対象外
	酸化性固体	分類対象外
	有機過酸化物	分類対象外
	金属腐食性物質	分類できない
健康に対する有害性	急性毒性(経口)	分類できない
	急性毒性(経皮)	分類できない
	急性毒性(吸入・ガス)	分類対象外
	急性毒性(吸入・蒸気)	分類対象外
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類できない
	急性毒性(吸入・粉塵、ミスト)	分類対象外
	皮膚腐食性・刺激性	分類できない
	眼に対する重篤な損傷・眼刺激性	区分2B
	呼吸器感作性	区分1
	皮膚感作性	区分1
	生殖細胞変異原性	分類できない
	発がん性	区分外
	生殖毒性	分類できない
	特定標的臓器・全身毒性(単回ばく露)	区分2(全身毒性) 区分3(気道刺激性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復ばく露)	分類できない
	吸引性呼吸器有害性	分類できない
環境に対する有害性	水生環境急性有害性	分類できない
	水生環境慢性有害性	分類できない
ラベル要素	絵表示又はシンボル	
	注意喚起語	危険
	危険有害性情報	眼刺激 吸入するとアレルギー、喘息又は呼吸困難を起すおそれ アレルギー皮膚反応を引き起こす恐れ 遺伝性疾患の恐れ 全身毒性の障害のおそれ 呼吸器への刺激の恐れ

GHS分類	項目	Cr
ラベル要素 (続き)	注意書き	<p>【安全対策】 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 使用前に取扱説明書を入手すること。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 個人用保護具や換気装置を使用し、曝露をさけること。 換気が十分でない場合には呼吸用保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。 粉じんを吸入しないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 汚染された作業衣を作業場から出さないこと。</p> <p>【救急処置】 吸入した場合、空気の新鮮な場所に移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。 汚染された保護衣を再使用する場合には、洗濯すること。 曝露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 呼吸に関する症状が出た場合には、医師の診断、手当てを受けること。 皮膚刺激又は、発疹が起きた場合は、医師の診断、手当てを受けること。</p> <p>【保管】 施錠して保管すること。</p> <p>【廃棄】 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。</p>
	国・地域情報:	-----

3. 組成・成分情報

単一物質・混合物の区別	単一物質
化学名	・クロム
化学式または構造式	Cr
官報公示整理番号 (安衛法、化審法)	-----
CAS番号	7440-47-3
国連分類および国連番号	-----

4. 応急措置

目に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。 気分が悪いときは、医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合	付着または接触部を石けん水で洗浄し、多量の水を用いて洗い流し、速やかに医師の診察を受ける。
吸入した場合	直ちに被災者を毛布等にくるんで安静にさせ、新鮮な空気の場所に移し、速やかに医師の診察を受ける。呼吸困難または呼吸が停止しているときは直ちに人工呼吸を行う。
飲み込んだ場合	意識があるときは吐かせて口の中を水でよく洗浄する。直ちに医師の手当てを受ける。

5. 火災時の配置消火剤

消火剤	この製品自体は、燃焼しない。 周辺火災に応じて適切な消火剤を用いる。
火災時の特定危険 有害性	火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

6. 漏洩時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立ち入りを禁止する。 作業者は適切な保護具(8. ばく露防止措置及び保護措置の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。 風上に留まる。低地から離れる。
環境に対する注意事項:	河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。 環境中に放出してはならない。
回収、中和:	漏洩物を掃き集めて空容器に回収し、後で廃棄処理する。
封じ込め及び浄化の方法・ 機材:	危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策:	床面に残るとすべる危険性があるため、こまめに処理する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取り扱い	<p>技術的対策: 第8項記載の設備対策を行い、保護具を着用する。</p> <p>局所排気・全体換気: 第8項記載の局所排気、全体換気を行う。</p> <p>安全取扱い注意事項: 使用前に使用説明書入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 空気中の濃度を暴露限度以下に保つために廃棄用の換気を行うこと。 この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。</p> <p>接触回避: 第10項を参照</p>
貯蔵	<p>技術的対策: 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。</p> <p>混触危険物質: 第10項を参照</p> <p>保管条件: 施錠して保管すること。 容器を密閉して換気の良い場所で保管すること。</p> <p>容器包装材料: 包装、容器の規制はないが密閉式の破損しない物に入れる。</p>

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。
許容濃度	ACGIH(93～94年) Cr: TLV-TWA 0.5 mg/m ³ (Metal) 日本産業衛生学会(2005年版) Cr:0.5 mg/m ³ (金属クロム)
設備対策	この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。 高熱工程で粉じん、ヒュームが発生するときは、空気汚染物質を許容濃度以下に保つために換気装置を設置する。
保護具	呼吸用保護具: 吸保護具の使用の要求される環境下では、呼吸保護具を着用する。
	保護眼鏡: 適当な保護眼鏡もしくは安全眼鏡を着用する。
	保護手袋: 皮膚の露出を防ぐために適当な手袋を着用する。
	保護衣: 皮膚の露出を防ぐために適当な保護衣を着用する。
衛生対策	この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

外観等	青鼠色で光沢のある金属
沸点:℃	2642℃
蒸気圧:Pa(20℃)	情報が入手できません。
揮発性	情報が入手できません。
融点:℃	1900℃
比重または嵩比重	7.14
溶解度	水%(℃):不溶
その他	-----

10. 安定性及び反応性

引火点:℃	情報が入手できません。
発火点:℃	情報が入手できません。
爆発限界:上眼% 下眼%	情報が入手できません。
可燃性	情報が入手できません。
発火性(自然発火性・水との反応性)	情報が入手できません。
酸化性	情報が入手できません。
自己反応性・爆発性	情報が入手できません。
粉じん爆発性	情報が入手できません。
安定性・反応性	湿った空気に暴露すると緑色になる。 アセチレン化合物、エチレンキッド類、アジ化物により衝撃に敏感な化合物が形成される。
避けるべき条件	湿度、混触危険物質との接触
混触危険物質	アセチレン化合物、エチレンキッド類、アジ化物、酸化剤(塩素酸塩、臭素酸塩、ヨウ素酸塩等)
その他	-----

11. 有害性情報

腐食性	情報が入手できません。
刺激性(皮膚、眼)	皮膚に接触すると発赤の症状を引き起こす。 眼に入ると発赤、痛みの症状を引き起こす。刺激性がある。
感作性	呼吸器感作性:データなし。 皮膚感作性:日本産業衛生学会は皮膚感作性第2群(人間に対しておそらく監査性があると考えられる物質)に分類、日本接触皮膚炎学会では分類されていない。
急性毒性 (50%致死量を含む)	経口: ウサギ LD ₅₀ 120 μg/kg
亜急性毒性	情報が入手できません。
慢性毒性	情報が入手できません。
がん原性	情報が入手できません。
変異原性 (微生物、染色体異)	情報が入手できません。
生殖毒性	情報が入手できません。
催奇毒性	情報が入手できません。
特定標的臓器・全身 毒性 (単回暴露)	ヒュームは上部気道を刺激する。気道刺激性と考えられる。呼吸器への刺激のおそれ(区分3)
特定標的臓器・全身 毒性 (反復暴露)	高い気中濃度に暴露された作業員(推定摂取量 200mg/日)に肝腫大が認められた。 長期又は反復暴露による肝臓の障害(区分1)
その他(水と反応して 有害なガスを発生する 等を含む)	情報が入手できません。

12. 環境影響情報

水生環境急性有害性	データ不足のため分類できない。
水生環境慢性有害性	L(E)C ₅₀ ≤ 100mg/Lデータが存在するものの、金属であり水中での挙動が不明であるため、区分4としている。

13. 廃棄上の注意

再利用のため回収します。

14. 輸送上の注意

キズが付きやすいので落下させたり、衝撃を与えたりしないでください。

15. 適用法令

労働安全衛生法	名称等を通知すべき有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)(政令番号 第142号)
労働基準法	疾病化学物質(法第75条第2項、施行規則第35条別表第1の2第4)
毒物及び劇物取締法	特定できず
消防法	第2条危険物第2類金属粉第2種可燃性 (目開きが150マイクロメートルの網ふるいを通過するものが50%以上のもの)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	特定できず
PRTR法	法第2条第2項、施行令第1条別表第1 政令番号 第87号

16. その他

その他 (記載内容の 問い合わせ先、 引用文献等)	記載内容の問い合わせ先	株式会社コベルコ科研
	引用文献	<ul style="list-style-type: none"> • ACGIH発行TLV_s[®] and BEI_s[®]2005 • 厚生労働省:職場の安全サイト http://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pg/GHS_MSD_FND.aspx • 安全衛生情報センター http://www.jaish.gr.jp/ http://www.nihs.go.jp/ICSC/ 他
	改訂履歴	Rev.0: 新規制定

* 危険・有害性の情報は十分ではありません。また、本文書は安全の保証書ではありません